

# 総会報告

## 第9回定時総会報告

日 時：平成31年3月20日(水) 13時00分～14時30分

会 場：全水道会館（東京都文京区本郷1-4-1）

出席代議員数：56名（内委任状41名）

（代議員数総数：59名，総会成立の定数30名以上）

議 案：

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 平成30年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 平成30年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 平成31年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 平成31年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 平成31年度役員の内 | 【第3号議案】 |
| (6) 名誉会員推挙の内   | 【第4号議案】 |
| (7) 会員除名の件     | 【第5号議案】 |

議 事：

午後1時00分，定款第15号に基づき澤 俊裕会長が議長となり，出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第9回定時総会の開会を宣した。

次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第1号議案】

#### 平成30年度 事業報告

（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

#### I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事/学術講演会理事]

##### 1. ロボット教育セミナー

- (1) からくり工作教室2018 in 川崎  
 オルガナイザー：古茂田和馬（株）東芝  
 期 日：2018年8月5日(日) 東芝未来科学館  
 対 象：小学生 参加無料  
 講 師：佐々木三郎氏，榎本誠治氏，伊藤圭史氏(日本メカニズムアーツ研究会)  
 内 容：からくり人形の実演を交えた解説，参加者によるからくりロボットの製作  
 参加者：40名
- (2) からくり工作教室2018 in 横浜  
 オルガナイザー：青木悠祐（沼津工業高等専門学校）  
 期 日：2018年8月12日(日) 三菱みなとみらい技術館  
 対 象：小学生 参加無料  
 内 容：様々なロボットの实演，参加者によるからくりロボットの製作  
 参加者：50名

##### 2. 学術講演会オープンフォーラム

第36回学術講演会（中部大学 春日井キャンパス，2018年9月4日～7日）にて，下記のオープンフォーラム（無料・一般公開）を開催した。

- ・2020年World Robot Summitは何を競うのか？
- ・ビルメンテナンスロボット事業における産学連携を探る
- ・MATLAB/Simulinkによる自律ロボットシステム開発
- ・NVIDIA Jetson Meetup ～AIロボットプラットフォーム デイナーセッション～
- ・サービスロボットの社会実装を目指す愛知県の取組
- ・研究専門委員会はこんなことを行っています
- ・わが企業のロボット ～ロボット関連企業の取り組み～
- ・学生と企業のための交流サロン
- ・廃炉に向けた日本原子力学会との連携と課題4
- ・災害対応（フィールド）ロボットの社会実装に向けて（COCN連携活動）～7年間の活動総括と新たな展開～

・論文投稿の勧め：査読プロセスを知ることで見えてくる論文執筆のポイント

・このロボットがすごい2018

・どうする？ 激減している国際会議論文！！！！

#### 3. インターナショナルロボットハイスクール2018 (IRH2018)

期 日：2018年10月19日(金)，20日(土)

Japan Robot Week 2018 (JRW2018) / World Robot Summit 2018 (WRS2018) 会期内

会 場：東京ビッグサイト，会議棟およびJRW2018 / WRS2018 会場内

内 容：国内外の高校生を対象とし，参加者はJRW2018 / WRS2018の展示の調査・研究を通じて，最前線の技術に触れるとともに，その研究成果を発表する。

参加者数：9校，90名（国内7校，68名，国外：2校，22名）

#### 4. World Robot Summit 2018 ブース出展

期 日：10月17日(水)～21日(日)

会 場：東京ビッグサイト

内 容：World Robot Summit 2018にブース出展を行い，日本ロボット学会の活動紹介を行った。

来客数：250名

#### II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]（定款第4条2号）

学会誌第36巻1号～10号を発行し，会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| 第36巻1号  | サステナブルを目指すロボティクス                      |
| 第36巻2号  | ヒューマノイド・ロボティクス2016夏の学校                |
| 第36巻3号  | 超音波で視る・動かす・癒やす，そして，触れる                |
| 第36巻4号  | ロボット考学                                |
| 第36巻5号  | マニピュレーション・レビュー                        |
| 第36巻6号  | 原子力発電所事項対応ロボットの現状I—廃炉作業最前線            |
| 第36巻7号  | 原子力発電所事項対応ロボットの現状II—人材育成，インフラ整備，シース発掘 |
| 第36巻8号  | 第35回日本ロボット学会学術講演会論文特集号                |
| 第36巻9号  | 開かれた知能                                |
| 第36巻10号 | テレグジスタンスと社会実装                         |

今年度は，ロボット学を取り巻く様々な社会問題やロボットと社会との関連に着目した話題として，1号においてロボットのサステナビリティ，4号においてはロボットにまつわる倫理や法律の話題，6/7号において原子力廃炉問題を取り扱った。また，より技術的なトピックとして，2号のヒューマノイド夏の学校，3号の超音波技術，9号の知能化技術，10号のテレグジスタンス等の話題を提供した。また，5号では，英文誌Advanced Roboticsと連携し，英文誌に掲載されたマニピュレーション技術に関するレビュー論文の邦訳概要版を掲載するという新たな試みを行った。以上のように，今年度の特集企画は，新しい試みも織り交ぜつつ，全体として幅広い分野にわたる話題をバランスよく取り上げた特集企画となった。

一般投稿論文については，年間の論文投稿件数は39件（前年度44件），判定結果は採録可45%（前年度45%）であった。これまで，論文投稿数は数年にわたり減少を続けてきているが，今年度に関しては減少ペースが緩んでいる。判定までの期間は平均163日，最短49日，最長303日，掲載までの期間は平均331日（前年度321日）であった。なお，評価点項目別の採択率は，新規性10%，有用性70%，提案性20%となっており，前年度比較して大きな変動は見られない。

従来7号もしくは8号で実施してきた学術講演会論文特集については，2019年以降，実施を取りやめる予定であるが，論文投稿数の維持と優れた研究の掘り起こしのためにも，学術講演会参加者への呼びかけが重要である。そこで，12月に，学術講演会の優秀講演，約140件に対して，英文誌Advanced Roboticsと共同で，論文投稿を呼びかける試みを従来同様に行った。

また，会員に対して論文投稿をエンカレッジすることを目的として，例年どおり，学術講演会においてオープンフォーラムを開催した。フォーラムタイトルを「論文投稿の勧め：査読プロセスを知ることで

見えてくる論文執筆のポイント」とし、英文誌と共同で1.5時間にわたるフォーラムを実施し、論文執筆の勘所や、論文査読のプロセスについて紹介・議論を行った。企業の協賛により昼食(お弁当)を提供したこともあり、会場が満席となる大盛況であった。講演内容に関連して様々な提案・ご意見もいただき有意義なオープンフォーラムとなった。

広告の年度集計結果に関しては、学術講演会での展示企業などへの広告勧誘活動などを実施したが、件数は49件となった。一昨年度56件、昨年度48件であることから、昨年度とほぼ同様の結果であった。金額は6,266,592円であり、年鑑目標金額400万円に対して1.5倍となり目標を達成した。昨年度の金額は4,126,680円であり、これと比較しても大幅に増加した。

III. 欧文誌(継続事業3)[担当: 欧文誌理事](定款第4条2号)

Editor in Chiefを細田耕教授(大阪大学)が担当し、Advanced Roboticsの安定した発展を維持させつつ、時流に即した新しい取り組みを行っている。

1. 欧文誌(Advanced Robotics)編集・発行

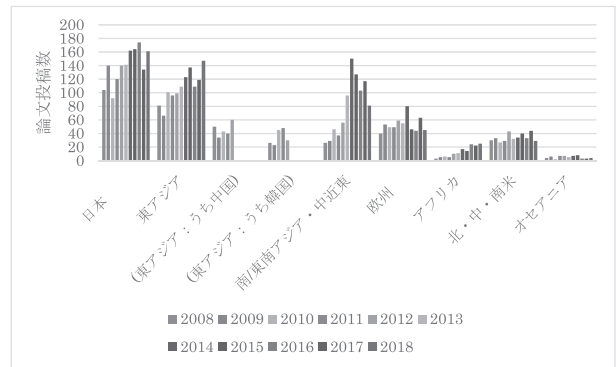
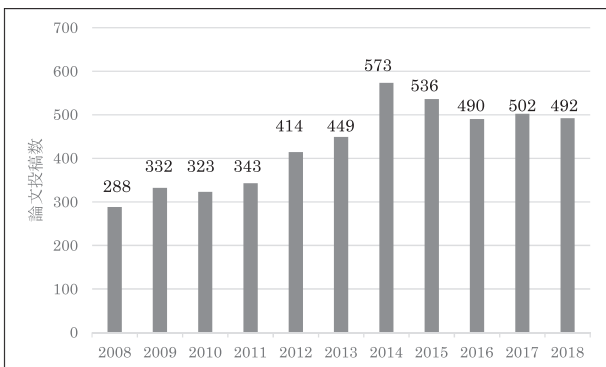
Vol. 32を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

- 32/1 2018 Jan Regular Issue (4 papers)
- 32/2 Jan Regular Issue (4 papers)
- 32/3 Feb Regular Issue (4 papers)
- 32/4 Feb Regular Issue (4 papers)
- 32/5 Mar Regular Issue (4 papers)
- 32/6 Mar Regular Issue (4 papers)
- 32/7 Apr Morphological Computation in Soft Robotics (4 papers)
- 32/8 Apr Regular Issue (4 papers)
- 32/9 May New Hydraulic Components for Tough Robots (5 papers)
- 32/10 May Regular Issue (3 papers)
- 32/11 Jun Regular Issue (4 papers)
- 32/12 Jun Regular Issue (4 papers)
- 32/13 Jul New Horizons in Telerobotics for real-Life Applications (2 papers)
- 32/14 Jul Regular Issue (5 papers)
- 32/15 Aug Adaptive Motion of Animals and Machines (1) (6 papers)
- 32/16 Aug Regular Issue (2 papers)
- 32/17 Sep Regular Issue (4 papers)
- 32/18 Sep Regular Issue (4 papers)
- 32/19 Oct Innovative Drone Technology (5 papers)
- 32/20 Oct Regular Issue (3 papers)
- 32/21 Nov Morphological Design for Haptic Interaction and Perception (5 papers)
- 32/22 Nov Regular Issue (3 papers)
- 32/23 Dec Regular Issue (3 papers)
- 32/24 Dec Regular Issue (3 papers)

2. 論文の投稿、査読の状況

平成30年(2018年)における年間論文投稿総数は492件(新規投稿論文・358件、再投稿論文・134件)であった(下表参照)。投稿論文の採択率は、25.43%であった。近年、Editorリジェクトを積極的に実施することで、質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っているが、論文投稿総数は500件程度で安定している状況である。

なお、2018年度の投稿から第1回目のディシジョンまでの期間は平均で76.03日であった(2017年度は68.56日、2016年度は61.57日、2015年度は66.7日、2014年度は78日)。これまで90日を目標にしているが、SchlorOneの導入の効果もあり目標を5年連続で達成している。また全投稿論文に対してCrossCheck™ softwareが活用され、剽窃の事前チェックを行っている。

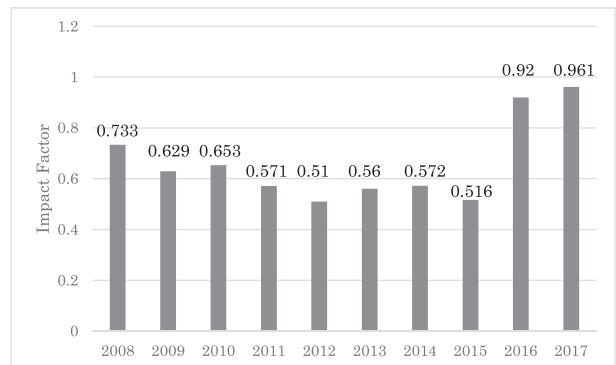


3. 企画/編集/発行作業

今年度も、日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」を企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す。ここ数年、0.5あたりで推移していたが、2016年のインパクトファクタは0.920に大幅に上昇した。今後も Taylor & Francis 社との連携を通して、戦略的にこれを上昇させることを検討する。昨年度より検討を行っている Review paper の増加や、また引用の多い論文数件の Open Access 化、魅力ある特集号の企画等を実施する。



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った。

2018年 (Vol. 32) 年間発行数: 24号

1. 会員全員の電子購読料金 26,664 ユーロ/年
2. RSJへ支払われる編修料 15,000 ユーロ/年(予定)
3. プリント版 会員価格 400 ユーロ/Volume

採択された投稿論文は、掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ1ヶ月以内に対応可能である。2018年は投稿から第1回目のディシジョンまでの平均日数は76.03日である(2017年度は68.56日、2016年度は61.57日、2015年度は66.7日、2014年度は78日、2013年度は80日)。多くの投稿論文は2回目の査読で採録の可否が決まるため、投稿から最終ディシジョンまでの平均日数は163日となっている。今後も査読期間の短縮に努めていく。

IV. 調査・研究(継続事業4)[担当: 企画理事](定款第4条3号)

前年度から継続して、以下の調査・研究専門委員会活動を実施した。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会※	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種

データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009年4月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	横田 諭	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

## (2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

## (3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

## V. 表彰(継続事業5) [担当:企画理事] (定款第4条4号)

2018年9月第36回学術講演会において、学会誌論文賞4件、Advanced Robotics Best Paper Award 4件、実用化技術賞3件、研究奨励賞9件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞3件、ロボット活用社会貢献賞2件、功労賞1件の表彰を行った。

## 1. 学会誌論文賞

- 操作入力量ヒストグラムの波形整形に基づく基本入出力ゲインの自動調整システム  
(日本ロボット学会誌第34巻第1号, pp.56-64)  
亀崎允啓(早稲田大学), 岩田浩康(早稲田大学), 菅野重樹(早稲田大学)
- ビンピッキングのための高精度三次元計測とロボスト推定  
(日本ロボット学会誌第34巻第4号, pp.261-271)  
荒井翔悟(東北大学), 原田智紀(セイコーエプソン(株)), 藤平 敦(東北大学), 橋本浩一(東北大学)
- 実験に基づく多目的最適化における失敗試行を考慮した最適化アルゴリズムの開発  
(日本ロボット学会誌第35巻第2号, pp.143-152)  
加藤健太(京都大学), 有泉 亮(名古屋大学), 松野文俊(京都大学)
- 弾性アームに基づく操舵可能な針の屈曲機構  
(日本ロボット学会誌第35巻第7号, pp.539-547)  
山田篤史(滋賀医科大学), 仲 成幸(滋賀医科大学), 森川茂廣(滋賀医科大学), 新田哲久(滋賀医科大学), 谷 徹(滋賀医科大学)

## 2. Advanced Robotics Best Paper Award

- Controlling an electromyography-based power-assist device for the wrist using electroencephalography cortical currents  
(Advanced Robotics Vol.31 No.1, 2, pp.88-96)  
Toshihiro Kawase (Tokyo Institute of Technology), Natsue Yoshimura (Tokyo Institute of Technology, National Center of Neurology and Psychiatry), Hiroyuki Kambara (Tokyo Institute of Technology), Yasuharu Koike (Tokyo Institute of Technology, National Center of Neurology and Psychiatry)
- Eye gaze tracking using corneal imaging and active illumination devices  
(Advanced Robotics Vol.31 No.8, pp.413-427)  
Atsushi Nakazawa (Kyoto University), Hiroaki Kato (Kyoto University), Christian Nitschke (Kyoto University), Toyooki Nishida (Kyoto University)
- Mechanical principles of dynamic terrestrial self-righting using wings

(Advanced Robotics Vol.31 No.17, pp.881-900)

Chen Li (Johns Hopkins University), Chad C. Kessens (Army Research Laboratory), Ronald S. Fearing (University of California), Robert J. Full (University of California)

- Software toolkit for modeling, simulation, and control of soft robots  
(Advanced Robotics Vol.31 No.22, pp.1208-1224)  
Eulalie Coevoet (University of Lille and CNRS), Thor Morales-Bieze (University of Lille and CNRS), Frederick Largilliere (University of Lille and CNRS), Zhongkai Zhang (University of Lille and CNRS), Maxime Thieffry (University of Lille and CNRS), Mario Sanz-Lopez (University of Lille and CNRS), Bruno Carrez (University of Lille and CNRS), Damien Marchal (University of Lille and CNRS), Olivier Goury (University of Lille and CNRS), Jeremie Dequid (University of Lille and CNRS), Christian Duriez (University of Lille and CNRS)

## 3. 実用化技術賞

- 医工・産学連携による片麻痺患者向け装着型歩行補助機 RE-Gait®の実用化  
田中英一郎(早稲田大学), 弓削 類(広島大学), 池原忠明(東京都立産業技術高等専門学校), 河原裕美((株)スペース・バイオ・ラボラトリーズ), 山崎文敬((株)イクシスリサーチ)
- 全軸にトルクセンサを備えたロボットアーム  
坂本義弘(東京ロボティクス(株)), 松尾雄希(東京ロボティクス(株)), 高木崇光(東京ロボティクス(株)), 岡 弘之(東京ロボティクス(株)), 小口陽平(東京ロボティクス(株))
- 片麻痺患者向け歩行練習支援ロボット「ウェルウォーク WW-1000」  
山内 実(トヨタ自動車(株)), 今井田昌幸(トヨタ自動車(株)), 藤掛祥則(トヨタ自動車(株)), 嶋田宏史(トヨタ自動車(株)), 中島一誠(トヨタ自動車(株)), 才藤栄一(藤田保健衛生大学), 平野 哲(藤田保健衛生大学), 田辺茂雄(藤田保健衛生大学), 谷川広樹(藤田保健衛生大学), 山田純也(藤田保健衛生大学病院)

## 4. 研究奨励賞

- 内山瑛美子(東京大学)  
脳活動情報及び身体運動情報からの特徴量抽出による認知的フレイル評価に関する検討  
第35回学術講演会/1B1-03
- 川節拓実(大阪大学)  
磁性エラストマを用いた柔軟な3軸力覚センサ  
第35回学術講演会/1F1-01
- 香澤 京(埼玉大学)  
sequence-to-sequence モデルを用いた軌道生成における外乱補償能力の検証  
第35回学術講演会/1I3-02
- 小山佳祐(東京大学)  
触覚機能を内包する近接覚の提案  
第35回学術講演会/1F1-02
- 志垣俊介(東京工業大学)  
生物行動理解のための人工物-生物閉ループ系の構築  
第35回学術講演会/1D1-06
- 武部康隆(早稲田大学)  
新生児蘇生法トレーニング・システムの開発—新生児に近い外見と多数のセンサを有する気道管理シミュレータの設計・製作—  
第35回学術講演会/2J1-04
- 田中一敏(東京大学)  
空気圧ヒト型ロボットによる生成モデルを用いた即応的な跳躍打撃動作の生成法  
第35回学術講演会/2L1-02
- 野沢峻一(東京大学)  
ヒューマノイドによるオンライン物体環境制約推定に基づく質量摩擦未知な物体の多様な操作の統一的実現法  
第35回学術講演会/2L1-06
- 山口明彦(東北大学)  
Grasp Adaptation Control with Finger Vision—Verification with Deformable and Fragile Objects—  
第35回学術講演会/1L3-01

## 5. ロボティクスシンポジウム研究奨励賞

- (1) 佐野勝哉 (東京大学)  
油圧シヨベルを用いた法面整形における掘削手順の定量評価手法  
第23回ロボティクスシンポジウム/1A4
- (2) 孫 小軍 (東京大学)  
ロボット義足の足部に応用する非線形減速比を有する直列弾性アクチュエータの開発  
第23回ロボティクスシンポジウム/5B1
- (3) 中島慎介 (東京大学)  
能動自己融解締結構造体の開発と修復構造への応用  
第23回ロボティクスシンポジウム/2A5

## 6. ロボット活用社会貢献賞

- (1) MUJIN コントローラによる教示レス・ロボットシステム普及による人手不足等の社会問題解決への貢献  
(株) MUJIN
- (2) 変なホテルによるロボット利活用ビジネス推進への貢献  
H.I.S. ホテルホールディングス (株)

## 7. 功労賞

- (1) ロボットハイスクール、国際ロボットハイスクール IRH の創設  
小平紀生 (三菱電機 (株)), 野田哲男 (大阪工業大学), 林 英雄 (株) 日刊工業新聞社

## VI. 国際 (継続事業 6) [担当: 国際理事] (定款第 4 条 5 号)

## 1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして RSJ の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
  - ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
  - ・Asian Robotics Society Union (ARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化
- の三つを柱に活動を行った。

## 2. 第 36 回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

9月4日～7日に中部大学にて開催された第36回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こういった場を提供する意義は大きい。なお、会員でなくとも登壇することを認めている。

今年度の第36回日本ロボット学会学術講演会においては、以下のセッション構成で発表が行われた。

- ・IS1: Special issue on assistive robotics 6件
- ・IS2: Special issue on "Robotics × AI" 6件
- ・IS3: Robotics, mechatronics and control 7件 (合計19件)

過去5年間の論文発表件数は、2012年41件、2013年26件、2014年27件、2015年16件、2016年23件、2017年14件である。RSJ NEWSでの宣伝や国際委員に協力を求めるといった活動が実り、昨年を大きく上回る投稿数となったが、例年と比較すると発表件数が十分回復したとはいえない。国際セッションを盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど、一層のテコ入れが必要と考える。また、今年度はテコ入れ策の一環として、学術講演会実行委員会からの提案により、国際セッションでの発表を対象にした賞(特典として受賞者は懇親会代が無料となる)を設置し、各セッションから1件ずつ計3件の優秀講演賞と、その中から1件の最優秀講演賞が選出された。

## 3. 国際交流活動

IROS 2018 会期中に開催された第13回アジアロボット学会連合サミットミーティング(13th Asian Robotics Society Union Summit Meeting)に参加した。これはアジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場である。

日 時: 2018年10月3日 12:30～14:30 (IROS 2018 期間中)  
場 所: Madrid Municipal Conference Centre, Room 4.R.4 (IROS 2018 会場)

ホストソサエティ: RST (台湾)

参加者:

- Prof. Li Wen (BUAA, China, Representative of CAA)
- Prof. Bruce McDonald (the Univ. of Auckland, NZ, Representative of ARAA)
- Prof. Minoru Asada (Osaka Univ., Japan, Vice president of RSJ)
- Dr. Shen Treratanakulchai (Imperial College London, UK, Representative of TRS, Thailand)
- Prof. Li-Chen Fu (National Taiwan Univ., Taiwan, Vice president of RST) : Host society
- Prof. Hyouk Ryeol Choi (Sungkyunkwan Univ., Korea, President of KROS)
- Prof. Kazuhiro Nakadai (HRI/Tokyo Tech, Japan, Executive board member of RSJ)
- Dr. Yuji Hosoda (General secretary of RSJ, Japan)
- Prof. Tomohiro Shibata (Kyutech, Japan, Unofficial representative of TRS, India)

主な議題:

- (1) ARSU の名称変更: Asia Robotics Society Union → Pacific-Asia Robotics Society Union (PARSU)
- (2) ARSU の活性化策について
- (3) 新しいメンバーの開拓 (パキスタンからの問合せあり。IROS 2019 で話を聞いてから判断との結論)
- (4) 次回ホストの決定: マカオ開催, CAA (中国) にホストを打診中

## 4. 国際会議への対応

RSJ が共催となっている RO-MAN と IROS に対し、以下のような活動を行った。

- (1) 27th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2018)  
期 間: 2018年8月26日～8月31日, 会 場: THE JIANGSU INTERNATIONAL CONFERENCE CENTER, 南京, 中国  
8月28日にステアリング会議が開催され、ロボット学会からは、副会長1名、国際担当理事2名、事務局長1名が出席し、スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した。副会長1名、国際理事2名が RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Award の審査委員として加わり、副会長が表彰式で贈賞した。本年度より、IEEE の Conference に昇格し、RSJ としては IROS と併せ、正式に二つの Conference のスポンサーとなることになったこともあり、RO-MAN を支援する意味で Advanced Robotics 誌で RO-MAN 特集号を企画した。25 件を超える投稿が集まり4月の発刊に向け作業を進めている。
  - (2) 2018 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2018)  
期 間: 2018年10月1日～10月5日, 会 場: Madrid Municipal Conference Centre, Madrid, Spain  
    - (a) 9月30日, IROS Advisory/Steering Committee Meeting が開催され、RSJ からは副会長1名、国際担当理事1名、事務局長1名が参加し、今後の開催体制や開催計画などを確認した。
      - RSJ の IROS 支援策として、RSJ サープラスを10%を限度として非営利の現地開催団体に分配する提案を行い、了承された。
      - 開催団体へのアドバンストローンを最大80,000 USD に引き上げることが承認された。
      - 昨年度承認された IROS-SDC Travel Award (IROS Student and Developing Countries Travel Award) については、50,000 USD 上限として実施されることが明文化された。
      - 2022年の IROS が日本(京都)で開催されることが決定した。10年間 IROS のステコミの chair を務めた George Lee 先生が今期で退任し、後任を早稲田大学の菅野先生が務めることが発表された。
- 今後も継続して、IROS での当学会の存在感を根付かせる

ことを目標に、Advisory/Steering Committee Meetingへの継続的な参加を図ることとした。

- (b) 10月2日, 13:30-14:30に産学連携を目的としたRSJ-IAC Lunch (RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration)を企画開催した。

- 昨年度の反省から、IROSのDigest book, Webページに開催通知を掲載し、広報活動を行った。
- 機器展示を行っている企業14社から申し込みがあったが、4社は時間内に終了できないことから、お断りし、10社に各5分プレゼンテーションを行ってもらった。
- 120食のLunch boxの提供を行い、完配。満席となり盛況であった。

- (c) 10月5日, 9:00-13:30にRSJ Tutorialを企画開催した。昨年度までの若手育成を目的とした特別枠のチュートリアル講演ではなく、今年はハンズオンチュートリアルをIROSのチュートリアル枠を利用して行った。チュートリアルの内容は、日本発のロボット聴覚のOSSであるHARKに関するものであり、概要説明(座学)、実際にPCやマイクロホンアレイを用いたプラクティス、ケーススタディ紹介、ライブデモからなる半日のチュートリアルとしては内容の濃いものであった。初めての試みであったが、22名の参加者があり、活発な議論が行われた。開催側の準備が大変な部分もあるが、こうしたツールを紹介していくことはロボット分野の活性化、技術の底上げにつながっていくので今後も続けていきたい。

#### 5. 国際会議共催/協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め、本会に関連する国際会議を共催(2件)、協賛(14件)、後援(2件)した(2018年1月~12月31日審査分)。

### Ⅶ. 学術講演会(その他事業1)[担当:学術講演会理事](定款第4条1号)

#### 1. 学術講演会

##### (1) 第36回学術講演会

期 日: 2018年9月4日(火)~7日(金)

会 場: 中部大学 春日井キャンパス

実行委員長: 大日方五郎(中部大学)

プログラム委員長: 下田真吾(理化学研究所)

発表件数:

一般講演: 558件(無料招待者の基調講演・招待講演を除いた件数であり、以下の合計とは異なる)

一般セッション 19テーマ/43セッション/170件

オーガナイズドセッション 30テーマ/47セッション/298件

ポスターセッション 5セッション/83件

国際セッション 3テーマ/3セッション/19件

オープンフォーラム: 13テーマ

特別講演 講 師: 弥永真生氏(筑波大学大学院 ビジネス科学研究科)

タイトル:「ロボット・AIと法ーリスクの分配に重点を置いて」

【参加者数:1,031名】

正会員/終身会員(事前):352名(当日):135名

学生会員(事前):207名(当日):7名

協賛後援団体一般会員(事前):49名(当日):17名

協賛後援団体学生会員(事前):85名(当日):0名

一般非会員(事前):40名(当日):53名

学生非会員(事前):49名(当日):7名

優待券利用の賛助会員(当日):19名

優待券非利用の賛助会員(事前):5名(当日):1名

展示出展企業参加:(事前):5名(当日):0名

【懇親会:368名】

一般・有料(事前):192名(当日):40名

学生・有料(事前):96名(当日):5名

協賛企業・有料(当日):8名

無料招待者(受賞者等):27名

### Ⅷ. 講習会(その他事業2)[担当:事業理事](定款第4条1号)

#### 1. ロボット工学セミナー

下記のセミナーを開催した。

- (1) 第111回セミナー「産業応用に期待される人工知能技術を利用したロボットマニピュレーション」  
期日:2018年4月20日(金) 東京大学 武田先端知ビル 武田ホール  
講師:渡辺哲陽(金沢大学),山口明彦(東北大学),堂前幸康(産業技術総合研究所),尾形哲也(早稲田大学)  
オーガナイザー:山田大輔(キヤノン)  
参加者:160名(会員・協賛:46名,会員・協賛(学生):14名,会員外:43名,会員外(学生):3名,賛助招待:22名,賛助優待:13名,遠隔:19名(内複数人視聴9組))
- (2) 第112回セミナー「ロボットののための画像処理技術」  
期日:2018年5月31日(木) 東京大学 武田先端知ビル 武田ホール  
講師:原 祥堯(千葉工業大学),玉木 徹(広島大学),藤吉弘亘(中部大学),金崎朝子(産業技術総合研究所),梅本将範(エヌビディア)  
オーガナイザー:山内悠嗣(中部大学),大原賢一(名城大学)  
参加者:161名(会員・協賛:34名,会員・協賛(学生):11名,会員外:49名,会員外(学生):19名,賛助招待:18名,賛助優待:12名,遠隔:18名(内複数人視聴9組))
- (3) 第113回セミナー「ロボットの作り方~移動ロボットの制御とROSによる動作計画実習~」  
期日:2018年6月16日(土),17日(日) 北陽電機株式会社 豊中事業所5階  
講師:渡辺敦志(SEQSENSE)  
オーガナイザー:阪東 茂(Doog),宮脇健三郎(大阪工業大学)  
参加者:24グループ,44名(会員・協賛:9名,会員・協賛(学生):11名,会員外:12名,会員外(学生):7名,賛助招待:4名,賛助優待:1名)
- (4) 第114回セミナー「サステナブルな空の産業発展をめざして~ドローンの運用とビジネス応用~」  
期日:2018年6月22日(金) 芝浦工業大学 豊洲キャンパス 交流棟 5F 501 教室  
講師:原田賢哉(宇宙航空研究開発機構),羽田靖史(工学院大学),今村博宣(ドローンワークス),山根 敦(サイトテック),金子洋介(テラドローン)  
オーガナイザー:安孫子聡子(芝浦工業大学)  
参加者:31名(会員・協賛:8名,会員外:9名,会員外(学生):1名,賛助招待:3名,賛助優待:1名,遠隔:9名(内複数人視聴5組))
- (5) 第115回セミナー「構成技術の変革から考える5年,10年後先のロボティクスの未来」  
期日:2018年7月19日(木) 東京大学 武田先端知ビル 武田ホール  
講師:塩澤 豊(オートデスク),清水信哉(エレファンテック),加藤大直(MagnaRecta),野下浩司(九州大学),ソノユニア(東京大学)  
オーガナイザー:梅館拓也(東京大学)  
参加者:63名(会員・協賛:22名,会員・協賛(学生):4名,会員外:21名,会員外(学生):3名,賛助招待:5名,賛助優待:2名,遠隔:6名(内複数人視聴3組))
- (6) 第116回セミナー「フィールドで活躍するロボット技術」  
期日:2018年10月31日(水) 中央大学 後楽園キャンパス5号館3階5336号室  
講師:巻 俊宏(東京大学),淺間 一(東京大学),岡田 聡(日立GEニュークリア・エナジー),広瀬茂男(ハイボット)  
オーガナイザー:小林亮介(日立製作所)  
参加者:35名(会員・協賛:14名,会員・協賛(学生):3名,会員外:6名,会員外(学生):1名,賛助招待:1名,賛助優待:4名,遠隔:6名(内複数人視聴1組))
- (7) 第117回セミナー「身体機能の拡張技術がもたらす人類の未来」  
期日:2018年11月19日(月) 慶應義塾大学 新川崎(K2)タウンキャンパスK2ハウス 1大会議室  
講師:大西公平(慶應義塾大学),古川正紘(大阪大学),金岡

克弥 (人機一体/立命館大学), 粕谷昌宏 (メルティンMMI), 杉浦裕太 (慶應義塾大学), 深堀 昂 (全日本空輸)

オーガナイザー: 野崎貴裕 (慶應義塾大学)

参加者: 48名 (会員・協賛: 17名, 会員・協賛 (学生): 3名, 会員外: 15名, 会員外 (学生): 1名, 賛助招待: 2名, 賛助優待: 1名, 遠隔: 9名 (内複数人視聴1組))

- (8) 第113(2)回セミナー「ロボットの作り方 ~移動ロボットの制御とROSによる動作計画実習~」

期日: 2018年11月24日(土), 25日(日) 筑波大学 第3エリアL棟3L307会議室

講師: 渡辺敦志 (SEQSENSE)

オーガナイザー: 阪東 茂 (Doog), 宮脇健三郎 (大阪工業大学)

参加者: 17グループ, 27名 (会員・協賛: 8名, 会員・協賛 (学生): 2名, 会員外: 12名, 会員外 (学生): 1名, 賛助優待: 4名)

※ のべ参加者: 569名

会員・協賛: 158名, 会員・協賛 (学生): 57名, 会員外: 158名, 会員外 (学生): 36名, 賛助等招待: 55名, 賛助等優待: 38名, 遠隔: 67名

2. 共催事業

本会に関連する国内行事 (講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等) の共催・協賛・後援について審査を行った。共催7件, 協賛88件, 後援16件 (2018年1月1日~12月31日審査分)。

主な国内共催事業:

- (1) 第23回ロボティクスシンポジウム (期日: 2018年3月14日(水)~15日(木))
- (2) ロボカップジャパンオープン2018 (2018年5月3日(木)~5月5日(土))
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2018 (2018年6月16日(土)~6月17日(日))
- (4) 第18回レスキューロボットコンテスト (2018年6月24日(日)~8月12日(日))
- (5) つくばチャレンジ2018 (2018年6月30日(土)~11月11日(日))
- (6) RSNP コンテスト2018 (2018年9月5日(水)~9月7日(金))
- (7) 第18回建設ロボットシンポジウム (2018年9月13日(木)~9月14日(金))

IX. 法人処理 [担当: 庶務理事]

1. 会員状況

	平成30年12月31日現在	平成29年12月31日現在	増減
名誉会員	11名	9名	2名増
正会員	2,982名	2,977名	5名増
学生会員A	535名	753名	218名減
学生会員B	422名	230名	192名増
終身会員	122名	107名	15名増
会員総数	4,072名	4,076名	4名減
賛助会員	87団体(110口)	82団体(105口)	5団体増(5口増)

2. 総会

- (1) 第8回定時総会  
 会期: 平成30年3月23日(金)  
 会場: 全水道会館  
 出席代議員数: 53名 (うち委任状提出: 43名) (代議員総数: 57名, 総会成立の定数29名以上, 議題の可決に必要な出席代議員数39名以上)  
 議題: 平成29年度の事業報告・決算報告, 平成30年度の事業計画・予算計画, 平成30年度役員選任, 名誉会員の選出, 以上について審議し, 議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長 (1月~3月)	委員長 (3月~12月)
会誌編集委員会	山下 淳	正宗 賢
欧文誌委員会	望山 洋	原田研介
事業計画委員会	山野辺夏樹	大原賢一

国際委員会	柴田智広	中臺一博
研究協議会	松日楽信人	松日楽信人
学術講演会実行委員会	松元明弘 (35回)	大日方五郎 (36回)
表彰委員会	浅田 稔	浅田 稔
学会誌論文賞選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
実用化技術賞選考小委員会	浅田 稔	浅田 稔
功労賞選考小委員会	浅田 稔	浅田 稔
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
研究奨励賞選考小委員会	浅田 稔	浅田 稔
ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	浅田 稔	浅田 稔
外部表彰選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
体制整備委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
アドバイザーボード	澤 俊裕	澤 俊裕
コンプライアンス委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
情報システム管理委員会	富田浩治	原口林太郎
学術講演会管理委員会	松日楽信人	松日楽信人
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	嶋地直広	石橋一郎
学会価値委員会	浅田 稔	浅田 稔
IRH2018 実行委員会	松日楽信人	松日楽信人

4. 役員を選出

平成30年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会, 理事会

- (1) 平成30年9月5日(水)に運営報告会を開催し, 会務報告を行った。
- (2) 平成30年度中に10回の理事会を開催し, 会務の審理と処理を行った。

6. フェロー, 名誉会員の選任

7名のフェロー, 3名の名誉会員を選任した。

7. 学会の基盤強化

理事会・各種委員会で, 個人会員および賛助会員の増大を目指し, 各種改善施策の推進・実施に務め, 賛助会員増, 学会誌改善等での実績につながった。学会誌は2019年1月号からリニューアルし一般向けの記事比率を増やしていく。また昨年実施した学生会員を2種分轄策は学会としてのコスト削減に寄与している。

8. 学会の社会的価値向上

若手教育, 産学連携, 国際化を3本の柱として強化している。今年度はWRS2018 (WRS2020のプレ大会) の開催に合わせ, 若手の工学教育および国際化の施策として第4回国際ロボットハイスクール IRH2018を実施し国内外90名, 3ヶ国の参加を得た。なお, WRS2018のロボットコンテストでは本学会から賞も贈呈した。産学連携については, 学術講演会オープンフォーラムにてビルメンテナンスロボットについて産学連携パネルディスカッションを開催した。国際化については, 共催国際学会のIROS及びRO-MANでの当学会の積極的関与施策を進めた。

9. 学会サービスの向上

個人会員・賛助会員の皆様, 支援いただく企業様, および本学会の三者にとってWin-Winの関係になるようなサービスの拡充策を実施してきた。今年度は, メーリングサービスを希望する企業様の賛助会員化, 学生向の英文論文の添削支援, 新規ロボット工学ハンドブックの発刊への編集スタートなどを実施した。

X. 事業報告に係る附属明細書 [担当: 庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

## 【第2号議案】

## 平成30年度決算報告

貸借対照表  
平成30年12月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	236,287,814	215,087,956	21,199,858
現金	3,645,548	3,123,652	521,896
普通預金	72,226,986	59,232,227	12,994,759
振替口座	25,945,477	18,273,585	7,671,892
通常貯金	989,513	989,505	8
定期預金	133,480,290	133,468,987	11,303
未収会費	1,939,200	2,314,800	△ 375,600
未収金	3,246,156	1,951,488	1,294,668
前払金	514,549	531,164	△ 16,615
立替金	35,640	35,640	0
仮払金	5,388,561	4,814,966	573,595
流動資産合計	247,411,920	224,736,014	22,675,906
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	12,265,189	11,125,213	1,139,976
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定資産合計	33,265,189	32,125,213	1,139,976
(2) その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	35,981,289	34,841,313	1,139,976
資産合計	283,393,209	259,577,327	23,815,882
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,369,331	2,323,904	45,427
前受会費	23,456,000	23,432,000	24,000
前受入会金	10,000	11,000	△ 1,000
預り金	808,930	758,426	50,504
仮受金	3,348,921	2,834,746	514,175
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	30,063,182	29,430,076	633,106
2. 固定負債			
退職給付引当金	12,265,189	11,125,213	1,139,976
固定負債合計	12,265,189	11,125,213	1,139,976
負債合計	42,328,371	40,555,289	1,773,082
III 正味財産の部			
一般正味財産	241,064,838	219,022,038	22,042,800
(うち特定資産への充当額)	( 21,000,000)	( 21,000,000)	( 0)
正味財産合計	241,064,838	219,022,038	22,042,800
負債及び正味財産合計	283,393,209	259,577,327	23,815,882

貸借対照表内訳表  
平成30年12月31日現在

(単位：円)

科目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	3,320,421		232,967,393		236,287,814
未収会費			1,939,200		1,939,200
未収金			3,246,156		3,246,156
前払金			514,549		514,549
立替金			35,640		35,640
仮払金			5,388,561	3,320,421	2,068,140
流動資産合計	3,320,421	0	244,091,499	3,320,421	244,091,499
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	8,868,730	308,769	3,087,690		12,265,189
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	8,868,730	308,769	24,087,690	0	33,265,189
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	8,944,994	333,974	26,702,321	0	35,981,289
資産合計	12,265,415	333,974	270,793,820	3,320,421	280,072,788
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			2,369,331		2,369,331
前受会費			23,456,000		23,456,000
前受入会金			10,000		10,000
預り金			808,930		808,930
仮受金	3,320,421		28,500	3,320,421	28,500
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	3,320,421	0	26,742,761	3,320,421	26,742,761
2. 固定負債					
退職給付引当金	8,868,730	308,769	3,087,690		12,265,189
固定負債合計	8,868,730	308,769	3,087,690	0	12,265,189
負債合計	12,189,151	308,769	29,830,451	3,320,421	39,007,950
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	241,064,838	0	241,064,838
正味財産合計	0	0	241,064,838	0	241,064,838
負債及び正味財産合計	12,265,415	333,974	270,793,820	3,320,421	280,072,788

正味財産増減計算書  
平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	92	1,862	△ 1,770
特定資産受取利息	92	1,862	△ 1,770
② 受取入金	84,000	148,000	△ 64,000
正会員受取入金	84,000	83,000	1,000
学生会員受取入金	0	65,000	△ 65,000
③ 受取会費	41,513,200	42,182,800	△ 669,600
正会員受取会費	29,950,000	30,090,000	△ 140,000
学生会員受取会費	2,763,200	3,612,800	△ 849,600
賛助会員受取会費	8,800,000	8,480,000	320,000
④ 事業収益	46,026,718	43,285,690	2,741,028
参加費事業収益	16,259,000	15,474,000	785,000
懇親会参加費事業収益	1,929,000	1,704,000	225,000
展示料事業収益	3,106,000	4,192,000	△ 1,086,000
講演概要集広告料事業収益	159,000	197,000	△ 38,000
セミナー参加費事業収益	7,620,040	6,269,500	1,350,540
会誌掲載料事業収益	7,095,060	7,817,040	△ 721,980
会誌広告料事業収益	6,460,992	4,364,280	2,096,712
会誌頒布事業収益	1,375,596	1,427,652	△ 52,056
編集料事業収益	2,022,030	1,840,218	181,812
⑤ 受取補助金等	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0
⑥ 雑収益	26,877,394	13,804,671	13,072,723
受取利息	13,532	11,761	1,771
雑収益	26,863,862	13,792,910	13,070,952
経常収益計	114,501,404	99,423,023	15,078,381
(2) 経常費用			
① 事業費	61,727,348	64,016,094	△ 2,288,746
給料手当	9,824,943	9,616,625	208,318
臨時雇賃金	1,392,906	1,836,535	△ 443,629
退職給付費用	872,282	761,500	110,782
福利厚生費	1,539,007	1,471,183	67,824
旅費交通費	2,648,258	1,641,519	1,006,739
通信運搬費	3,993,478	3,927,989	65,489
消耗什器備品費	129,380	119,040	10,340
消耗品費	3,886,881	2,617,173	1,269,708
印刷製本費	17,918,613	17,563,686	354,927
賃借料	1,069,902	572,078	497,824
諸謝金	1,598,643	1,827,931	△ 229,288
租税公課	1,041,200	942,000	99,200
支払負担金	4,061,653	10,037,909	△ 5,976,256
委託費	9,113,902	8,956,598	157,304
雑費	2,636,300	2,124,328	511,972
② 管理費	30,661,256	30,040,148	621,108
給料手当	9,239,524	9,124,896	114,628
臨時雇賃金	1,925,202	2,654,898	△ 729,696
退職給付費用	267,694	292,451	△ 24,757
福利厚生費	1,445,691	1,412,583	33,108
会議費	181,656	160,596	21,060
旅費交通費	742,349	522,339	220,010
通信運搬費	794,256	746,917	47,339
消耗什器備品費	242,560	528,810	△ 286,250
消耗品費	415,827	419,916	△ 4,089
印刷製本費	731,152	784,315	△ 53,163
光熱水料費	397,883	378,507	19,376
賃借料	7,387,375	7,025,016	362,359
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	763,590	609,979	153,611
諸会費	344,815	343,357	1,458
諸謝金	1,087,020	1,100,628	△ 13,608

租税公課	56,200	51,300	4,900
委託費	3,224,199	2,555,073	669,126
雑費	1,408,263	1,322,567	85,696
経常費用計	92,388,604	94,056,242	△ 1,667,638
評価損益等調整前当期経常増減額	22,112,800	5,366,781	16,746,019
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	22,112,800	5,366,781	16,746,019
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	22,112,800	5,366,781	16,746,019
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	22,042,800	5,296,781	16,746,019
一般正味財産期首残高	219,022,038	213,725,257	5,296,781
一般正味財産期末残高	241,064,838	219,022,038	22,042,800
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	241,064,838	219,022,038	22,042,800



正味財産増減計算書内訳表  
平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

No. 1 (単位：円)

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
学生会員受取入会金								
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事 業 収 益	0	14,931,648	2,022,030	0	0	0	0	16,953,678
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演要集広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		7,095,060						7,095,060
会誌広告料事業収益		6,460,992						6,460,992
会誌頒布事業収益		1,375,596						1,375,596
編集料事業収益			2,022,030					2,022,030
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受 取 寄 付 金	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 寄 付 金								
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								
雑 収 益								
経常収益計	0	14,931,648	2,022,030	0	0	0	0	16,953,678
(2) 経常費用								
事 業 費	1,194,767	26,629,214	3,580,141	1,674,441	7,760,024	1,251,233	0	42,089,820
給 料 手 当		5,138,358			3,987,296			9,125,754
臨 時 雇 賃 金	153,650	24,406		428,000				606,056
退職給付費用		510,438			335,074			845,512
福 利 厚 生 費		818,214			612,162			1,430,376
旅 費 交 通 費	94,118	381,871	173,388	150,445	202,830	824,298		1,835,950
通 信 運 搬 費	23,647	3,479,737	20,574	53,459	69,129	68,714		3,715,260
消耗什器備品費								
消 耗 品 費	99,518		13,260	29,508	446,102			588,388
印 刷 製 本 費	104,004	13,348,304		178,045		75,600		13,705,953
賃 借 料				101,740				101,740
諸 謝 金	82,465			605,812				688,277
租 税 公 課		431,300	8,000					439,300
支 払 負 担 金	270,683		26,915	81,218				378,816
委 託 費	366,660	2,330,698	3,338,004					6,035,362
雑 費	22	165,888		37,214	2,107,331	282,621		2,593,076
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当								
臨 時 雇 賃 金								
退職給付費用								
福 利 厚 生 費								
会 議 費								
旅 費 交 通 費								
通 信 運 搬 費								
消耗什器備品費								
消 耗 品 費								
印 刷 製 本 費								

光熱水料費								
賃 借 料								
保 険 料								
支 払 手 数 料								
諸 会 費								
諸 謝 金								
租 税 公 課								
委 託 費								
雑 費								
経常費用計	1,194,767	26,629,214	3,580,141	1,674,441	7,760,024	1,251,233	0	42,089,820
当期経常増減額	-1,194,767	-11,697,566	-1,558,111	-1,674,441	-7,760,024	-1,251,233	0	-25,136,142
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,194,767	-11,697,566	-1,558,111	-1,674,441	-7,760,024	-1,251,233	0	-25,136,142
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,194,767	11,697,566	1,558,111	1,674,441	7,760,024	1,251,233	0	25,136,142
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表  
平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

No. 2

(単位：円)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	92	0	92
特定資産受取利息					92		92
受取入金会金	0	0	0	0	84,000	0	84,000
正会員受取入金会金					84,000		84,000
学生会員受取入金会金							
受取会費	0	0	0	0	41,513,200	0	41,513,200
正会員受取会費					29,950,000		29,950,000
学生会員受取会費					2,763,200		2,763,200
賛助会員受取会費					8,800,000		8,800,000
事業収益	21,453,000	7,620,040	0	29,073,040	0	0	46,026,718
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,259,000			16,259,000			16,259,000
懇親会参加費事業収益	1,929,000			1,929,000			1,929,000
展示料事業収益	3,106,000			3,106,000			3,106,000
講演概要集広 告料事業収益	159,000			159,000			159,000
セミナー参加費事業収益		7,620,040		7,620,040			7,620,040
会誌掲載料事業収益							7,095,060
会誌広告料事業収益							6,460,992
会誌頒布事業収益							1,375,596
編集料事業収益							2,022,030
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	26,877,394	0	26,877,394
受取利息					13,532		13,532
雑収益					26,863,862		26,863,862
経常収益計	21,453,000	7,620,040	0	29,073,040	68,474,686	0	114,501,404
(2) 経常費用							
事業費	14,201,804	5,435,724	0	19,637,528	0	0	61,727,348
給料手当	699,189			699,189			9,824,943
臨時雇賃金	662,850	124,000		786,850			1,392,906
退職給付費用	26,770			26,770			872,282
福利厚生費	108,631			108,631			1,539,007
旅費交通費	349,873	462,435		812,308			2,648,258
通信運搬費	217,078	61,140		278,218			3,993,478
消耗什器備品費		129,380		129,380			129,380
消耗品費	174,420	3,124,073		3,298,493			3,886,681
印刷製本費	4,156,920	55,740		4,212,660			17,918,613
賃借料	477,048	491,114		968,162			1,069,902
諸謝金	167,056	743,310		910,366			1,598,643
租税公課	416,900	185,000		601,900			1,041,200
支払負担金	3,643,335	39,502		3,682,837			4,061,653
委託費	3,078,540			3,078,540			9,113,902
雑費	23,194	20,030		43,224			2,636,300
管理費	0	0	0	0	30,661,256	0	30,661,256
給料手当					9,239,524		9,239,524
臨時雇賃金					1,925,202		1,925,202
退職給付費用					267,694		267,694
福利厚生費					1,445,691		1,445,691
会議費					181,656		181,656
旅費交通費					742,349		742,349
通信運搬費					794,256		794,256
消耗什器備品費					242,560		242,560
消耗品費					415,827		415,827

印刷製本費					731,152		731,152
光熱水料費					397,883		397,883
賃借料					7,387,375		7,387,375
保険料					6,000		6,000
支払手数料					763,290		763,290
諸会費					344,815		344,815
諸謝金					1,087,020		1,087,020
租税公課					56,200		56,200
委託費					3,224,199		3,224,199
雑費					1,408,263		1,408,263
経常費用計	14,201,804	5,435,724	0	19,637,528	30,661,256	0	92,388,604
評価損益等調整前 当期経常増減額	7,251,196	2,184,316	0	9,435,512	37,813,430	0	22,112,800
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	7,251,196	2,184,316	0	9,435,512	37,813,430	0	22,112,800
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-7,251,196	-2,184,316	0	-9,435,512	-15,700,630	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	22,112,800	0	22,112,800
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	22,042,800	0	22,042,800
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	219,022,038	0	219,022,038
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	241,064,838	0	241,064,838
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	241,064,838	0	241,064,838

## 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

## (1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

## (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

## 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	11,125,213	1,139,976	0	12,265,189
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	32,125,213	1,139,976	0	33,265,189

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	12,265,189	—	( 0)	12,265,189
定期預金	21,000,000	( 0)	(21,000,000)	—
合 計	33,265,189	( 0)	(21,000,000)	(12,265,189)

## 附 属 明 細 書

## 1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

## 2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	11,125,213	1,139,976	0	0	12,265,189

財 産 目 録  
平成 30 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	3,645,548	
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	26,953,784	
〃 みずほ銀行本郷支店	13,744,880	
〃 みずほ銀行本郷支店	265,830	
〃 りそな銀行本郷支店	20,011,810	
〃 三井住友銀行小石川支店	11,250,682	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,283,157	
〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	60,128,513	
〃 みずほ銀行本郷支店	18,068,620	
振替口座 ゆうちょ銀行	25,945,477	
通常貯金 ゆうちょ銀行	989,513	
未収会費 平成 30 年度会費 260 名	1,939,200	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	3,246,156	
前払金 平成 31 年 1 月分事務所家賃他	514,549	
立替金 ロボティクスシンポジア WEB サーバ費用	35,640	
仮払金 IROS2019AdvancedLoan 他	2,068,140	
流動資産合計		244,091,499
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金) 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	12,265,189	
定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		33,265,189
(2) その他固定資産		
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		35,981,289
資産合計		280,072,788
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 印刷・封入・郵送費(日本ロボット学会誌 36-10)	236,364	
〃 出版費・広告・別刷料(日本ロボット学会誌 36-10)	1,249,657	
〃 人材派遣費 12 月分	121,680	
〃 交通費(事業計画委員会関係他)	563,297	
〃 税理士顧問料 11. 12 月分	86,400	
〃 コピー機使用料他	111,933	
前受会費 会費前受分	23,456,000	
前受入会金 入会金前受分	10,000	
預り金 源泉所得税	136,877	
〃 住民税	64,300	
〃 社会保険料	607,753	
仮受金 誤入金分	28,500	
未払法人税等 平成 30 年分法人住民税	70,000	
流動負債合計		26,742,761
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	12,265,189	
固定負債合計		12,265,189
負債合計		39,007,950
正味財産		241,064,838

## 監 査 報 告

私たち監事は、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第八期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

## (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

## (2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成31年2月14日  
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 高西 淳夫 ㊟  
監 事 吉見 卓 ㊟

## 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第八期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

平成31年2月14日  
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 高西 淳夫 ㊟  
監 事 吉見 卓 ㊟

## 【報告資料1】

## 平成31年度 事業計画

(自 平成31年1月1日 至 平成31年12月31日)

## I. シンポジウム(継続事業1) [担当: 事業理事/学術講演会理事]

## 1. ロボット教育セミナー

ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室(仮)」

期日: 2019年7 or 8月(予定)

## 2. オープンフォーラム

第37回学術講演会(早稲田大学, 2019年9月3日~7日)にて、オープンフォーラム(無料・一般公開)を企画予定。

## 3. インターナショナルロボットハイスクール IRH2019

2019年12月開催の国際ロボット展2019会期中に、東京ビッグサイトにて、IRH2019の実施を予定。

## II. 学会誌(継続事業2) [担当: 学会誌理事] (定款第4条2号)

従来どおり、学会誌全10号を、1月、3月、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月に刊行し、会員に配布する。

学会の顔である学会誌の魅力を高め、学会の内外に向けて強く訴求するために、第37巻1号より表紙・サイズ・記事内容等について、大幅な刷新を順次進める。雑誌サイズについては、従来の変形A4判に代えて、通常のA4判を採用する。これにより、1ページあたりの論文執筆可能量の増加、本棚への並べやすさの改善、(郵送配布時の)投げ込み広告の入れやすさ向上、などを狙う。表紙については、従来の特集に連動した表紙図案ではなく、1年を通じたテーマ性のある表紙図案を採用する。また、「日本ロボット学会誌」という正式名称に加え、より親しみの持てる副題として「ロボ學」を定め、表紙等に大きく掲載する。これら一連の施策により、学会員のみならずロボットに興味を持つ一般の人々に対しても魅力のある学会誌作りをめざす。

なお、特集テーマは以下を予定している。

- 第37巻1号 ソフトロボティクス(仮)
- 第37巻2号 多脚ロボット(仮)
- 第37巻3号 ワールドロボットチャレンジ大会(仮)
- 第37巻4号 ヒューマン・イン・ザ・ループ(仮)
- 第37巻5号 触覚・マニピュレーション関連(仮)
- 第37巻6号 食品ロボットのためのマニピュレーション技術(仮)
- 第37巻7号 衛星測位とロボティクス(仮)
- 第37巻8号 IoTとしての産業用ロボットの現在地・その後(仮)
- 第37巻9号 ロボットを通じたコミュニケーション(仮)
- 第37巻10号 協働ロボット・作業支援ロボット(仮)

例年7号に企画していた学術講演会論文特集号は、近年の投稿状況を鑑み本年度は実施しない。また、各特集においては、新たに冒頭にカラーページを設け、特集に登場するロボット等のカラー写真を掲載する。従来、1ページにわたって記載していた巻頭言も、ショートコラムとしてカラーページに配置することを検討する。

上記の特集以外にも、ロボット研究者や学生にとって魅力のある一般記事の作成を進める。学生を中心とした学生編集委員会を設けインタビュー記事を作成する、あるいは、より良い論文の書き方を指南する教育的記事などの作成を検討していく。

一方、学会員からの学術投稿論文については、完全オープンアクセス化を実現する。従来、発刊から1年間はJ-Stageにおいて会員のみ公開をしていたが、37巻1号からは発刊と同時にJ-Stageで会員/非会員を問わず、投稿論文の閲覧を可能とする。これにより、会員の研究成果をより早く世の中に届けられるような体制とする。さらに、2020年度の第38巻からは、投稿論文を印刷冊子体から切り離し完全オンライン化することをめざす。そのための、周知を2019年度中に十分に行う。

広告に関しては、収入目標を400万円と設定し、特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた取り組みを進める。

## III. 欧文誌(継続事業3) [担当: 欧文誌理事] (定款第4条2号)

## 1. 欧文誌(Advanced Robotics)の発行計画

下記のとおり、2019年度においてはVol. 33を年24号発行することを計画している。

Vol. No.	Month	Title
33/1, 2	Jan	Machine Learning Methods for High-Level Cognitive Capabilities in Robotics
33/3, 4	Feb	System Science of Bio-navigation
33/5, 6	Mar	Regular Issue
33/7, 8	Apr	Robot and Human Interactive Communication
33/9, 10	May	Robotic Vision for Dexterous Manipulation and Interaction
33/11, 12	Jun	Cyborg and Bionic Systems
33/13, 14	Jul	Regular Issue
33/15, 16	Aug	Regular Issue
33/17, 18	Sep	Special Issue
33/19, 20	Oct	Regular Issue
33/21, 22	Nov	Artificial Intelligence and Machine Learning for Robotics Manipulation
33/23, 24	Dec	Regular Issue

## 2. 編集体制

2019年度は、細田耕編集長の下、シニアエディター8名および10名の欧文誌委員会メンバーを中心に、査読小委員会、国際編集委員、アドバイザー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌 Advanced Roboticsの国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

## 3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014年度から年間24号としたことで、一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られているが、今後も採否決定までの期間90日を目標に出版を行っていく。一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い、国際的認知度のさらなる向上、また引用の多い論文数件をOpen Access可能とする等を実施し掲載論文の質の向上を図り、昨年度上昇したCitation Indexの評価(インパクトファクター)の更なる向上を目指す。さらに、国際貢献の意味も含め、国内外からの投稿数をさらに増大させていく。また、完全Open Access化や有料化についても、その是非も含めて検討を開始する。

## 4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS にあわせて国際編集委員会を開催し、海外委員による特集号企画などを通して、国際的認知度を高める努力を行っていく。また国際貢献のために、ロボット学会の外国人会員の増加、日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また、国際委員会の活動に協力し、他学会との協力体制強化、パンフレットの国際会議場などでの配布、AR 宣伝のためのポスターの制作と配布、ウェブの英語コンテンツ充実、等を実施する。

## IV. 調査・研究(継続事業4) [担当: 企画理事] (定款第4条3号)

## 1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会、研究専門委員会による活動を行う。

## (1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009年4月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	横田 論	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

## (2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月

産学連携調査研究委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

## (3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

## V. 表彰(継続事業5)[担当:企画理事](定款第4条4号)

## 1. 表彰

第37回学術講演会において学会誌論文賞, Advanced Robotics Best Paper Award, 実用化技術賞, 研究奨励賞, ロボティクスシンポジウム研究奨励賞, ロボット活用社会貢献賞および功労賞の授賞を行う。また, FA 財団論文賞への候補論文の推薦など, 学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる, 外部団体からの各賞の推薦依頼やその他の表彰についても, 積極的に対応していく。

## VI. 国際(継続事業6)[担当:国際理事](定款第4条5号)

## 1. 学術講演会における国際セッション

第37回日本ロボット学会学術講演会(早稲田大学)において, OS 国際セッションを組織する。発表者には, 参加登録費を課すが, 登壇資格は問わない。

## 2. 国際交流活動

- (1) ARSU サミット会議の継続的な参加(第14回)
- (2) ARSU サミット会議へ未参加のアジア諸国の勧誘
- (3) ARSU サミット会議の情報公開の推進
  - ・ホームページの整備(特に各ソサエティの組織情報更新)
  - ・議事録・各ソサイエティの資料公開
- (4) ロボット教育プログラムの確立とその標準化

## 3. 国際会議関連

本会にかかわる下記国際会議の共催/協賛, 運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN2019 日程: 2019年10月14日~18日, 会場: ニューデリー, インド
- ・IROS2019 日程: 2019年11月4日~8日, 会場: マカオ, 中国

RO-MAN2019では学際的研究を対象とした賞(RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Award)のスポンサー(KROSと共同)となる。

RO-MAN Steering Committeeには, 国際担当理事, 事務局長が参加する。

IROS Steering Committeeには, 会長, 国際担当理事, 事務局長が参加する。

IROS2019ではBest Conference Paper Awardのスポンサーとなる。IROS2019では, 若手研究者向けのRSJ Tutorialを企画・実施する。また, 企業(主に機器展示企業)と参加者のコラボレーションのためのRSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration (RSJ-IAC Lunch)を企画・実施する。

## 4. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
  - ・対アジア外交における戦略の立案(協調と競争のバランス付け)
  - ・IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報
  - ・英語による広報活動の展開(HP, バンフレット)
- (2) 国際委員会の位置づけと活動の見直し

## VII. 学術講演会(その他事業1)[担当:学術講演会理事](定款第4条1号)

## 1. 学術講演会・シンポジウム等

## (1) 第37回学術講演会

期 日: 2019年9月3日(火)~7日(土)  
会 場: 早稲田大学 早稲田キャンパス  
実行委員長: 岩田浩康(早稲田大学)  
プログラム委員長: 平田泰久(東北大学)

## VIII. 講習会(その他事業2)[担当:事業理事](定款第4条1号)

## 1. ロボット工学セミナー開講予定(タイトルはすべて仮)

- (1) 第118回「実践的に学ぶ! 深層学習を用いた自動運転・ナビゲーションの最前線」  
期 日: 2019年4月(予定)  
オーガナイザ: 香月理絵(東芝)
- (2) 第119回「原理から学ぶロボットのための画像処理技術」  
期 日: 2019年5月(予定)  
オーガナイザ: 荒井翔悟(東北大学)
- (3) 第120回「ロボットの作り方 ~ ROSを使用した画像処理とマニピュレータ制御 ~」  
期 日: 2019年6月(予定)  
オーガナイザ: 高橋三郎(パナソニック), 長谷川孔明(豊橋技術科学大学)
- (4) 第121回「産業応用に向けた自律ロボット実現のための動作計画および教示支援技術」  
期 日: 2019年6月(予定)  
オーガナイザ: 鈴木章洋(オムロン)
- (5) 第122回「近年のベイズ推論研究とロボット工学への応用について」  
期 日: 2019年7月(予定)  
オーガナイザ: 雨宮 智(富士通)
- (6) 第123回「ロボット工学の未解決問題 ~ ロボットへの期待とその障壁 ~」  
期 日: 2019年9月(予定)  
オーガナイザ: 白藤翔平(東京大学)
- (7) 第124回「リハビリテーション現場へのロボット技術の導入」  
期 日: 2019年10月(予定)  
オーガナイザ: 山崎一徳(藤田保健衛生大学)

## 2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。国内共催事業(予定を含む):

- (1) 第24回ロボティクスシンポジウム  
期 日: 2019年3月14日(木), 15日(金)  
会 場: 黒部・宇奈月温泉 やまのは(富山県黒部市)  
実行委員長: 小柳健一(富山県立大学)  
プログラム委員長: 渡辺哲陽(金沢大学)
- (2) ロボカップジャパンオープン2019  
期 日: 未定, 開 催 地: 未定
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2019  
期 日: 未定, 開 催 地: 未定
- (4) 第19回レスキューロボットコンテスト  
期 日: 未定, 開 催 地: 未定

## IX. 法人処理[担当:庶務理事]

## 1. 第9回定時総会

会 期: 平成31年3月20日(予定)  
会 場: 全水道会館(予定)

## 2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月~3月)	委員長 (3月~12月予定)
会誌編集委員会	正宗 賢	山本晃生
欧文誌委員会	原田研介	和田正義
事業計画委員会	大原賢一	辻 俊明
国際委員会	中臺一博	稲邑哲也
研究協議会	松日楽信人	次期副会長
学術講演会実行委員会	大日方五郎 (36回)	岩田浩康 (37回)
表彰委員会	浅田 稔	次期副会長
学会誌論文賞選考小委員会	松日楽信人	次期副会長
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	松日楽信人	次期副会長
実用化技術賞選考小委員会	浅田 稔	次期副会長
功労賞選考小委員会	浅田 稔	次期副会長

ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松日楽信人	次期副会長
研究奨励賞選考小委員会	浅田 稔	次期副会長
ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	浅田 稔	次期副会長
外部表彰選考小委員会	松日楽信人	次期副会長
体制整備委員会	澤 俊裕	次期会長
アドバイザーボード	澤 俊裕	次期会長
コンプライアンス委員会	澤 俊裕	次期会長
情報システム管理委員会	原口林太郎	有坂寿洋
学術講演会管理委員会	松日楽信人	次期副会長
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	石橋一郎	矢野 寛
学会価値委員会	浅田 稔	次期副会長
IRH 実行委員会	松日楽信人	次期副会長

## 3. 役員の選出

平成31年度の理事・監事を選出する。

## 4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

## 5. 学会の基盤強化

新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化をめざし、広報活動、産業貢献・異業種連携活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上をはかる。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出、若年層への啓発活動を継続実施する。

## 6. 学会サービスの向上

学会価値委員会、ロボット研究開発アーカイブ実行委員会にて、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を進め、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上をはかる。

## 7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。

## 8. 将来検討

学会価値委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

## 9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

## 【報告資料2】

## 平成31年度予算計画

収支予算書(損益ベース)平成31年1月1日～平成31年12月31日(公益事業)							
科 目	実施事業等会計						小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息							
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金							
学生会員受取入金							
受取会費	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費							
学生会員受取会費							
賛助会員受取会費							
事業収益	0	11,406,000	2,100,000	0	0	0	13,506,000
申込金事業収益							
参加費事業収益							
懇談会参加費事業収益							
展示料事業収益							
講演概要集広 告料事業収益							
セミナー参加費事業収益							
会誌掲載料事業収益		6,018,000					6,018,000
会誌広告料事業収益		4,000,000					4,000,000
会誌頒布事業収益		1,388,000					1,388,000
編集料事業収益			2,100,000				2,100,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
受取利息							
雑収益							
経常収益計	0	11,406,000	2,100,000	0	0	0	13,506,000
(2) 経常費用							
事業費	1,410,000	26,219,495	7,345,000	11,286,000	7,534,280	2,900,000	46,534,775
給料手当		5,302,345			4,083,880		9,386,225
臨時雇賃金	100,000	37,000		84,000			221,000
退職給付費用		397,800			280,800		678,600
福利厚生費		1,046,350			738,600		1,784,950
旅費交通費	47,000	353,000	70,000	10,000	197,000	650,000	1,327,000
通信運搬費	13,000	3,650,000	200,000	19,000	103,000	24,000	4,009,000
消耗什器備品費							
消耗品費	220,000	56,000	26,000	29,000	19,000		350,000
印刷製本費		13,156,000		10,000		76,000	13,242,000
賃借料	18,000			151,000			169,000
諸謝金	140,000			680,000		500,000	1,320,000
租税公課		431,000	8,000				439,000
支払負担金	325,000		3,733,000	141,000	5,000		4,204,000
委託費	547,000	1,637,000	3,308,000				5,492,000
雑費		153,000		2,000	2,107,000	1,650,000	3,912,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0
給料手当							
臨時雇賃金							
退職給付費用							
福利厚生費							
会議費							
旅費交通費							
通信運搬費							
消耗什器備品費							



消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	1,410,000	262,195	7,345,000	1,126,000	7,534,280	2,900,000	0	46,534,775
評価損益等調整前 当期経常増減額	-1,410,000	-14,813,495	-5,245,000	-1,126,000	-7,534,280	-2,900,000	0	-33,028,775
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,410,000	-14,813,495	-5,245,000	-1,126,000	-7,534,280	-2,900,000	0	-33,028,775
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,410,000	14,813,495	5,245,000	1,126,000	7,534,280	2,900,000		33,028,775
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民 税及び事業税								
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

収支予算書(損益ベース)平成31年1月1日～平成31年12月31日(その他事業)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0		0	0
特定資産受取利息							0
受取入金	0	0	0	0	100,000	0	100,000
正会員受取入金					100,000		100,000
学生会員受取入金					0		0
受取会費	0	0	0	0	42,068,000	0	42,068,000
正会員受取会費					30,090,000		30,090,000
学生会員受取会費					3,978,000		3,978,000
賛助会員受取会費					8,000,000		8,000,000
事業収益	23,600,000	5,950,000	0	29,550,000	0	0	43,056,000
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,000,000			16,000,000			16,000,000
懇談会参加費事業収益	3,040,000			3,040,000			3,040,000
展示料事業収益	4,210,000			4,210,000			4,210,000
書籍等製本費	350,000			350,000			350,000
セミナー参加費事業収益		5,950,000		5,950,000			5,950,000
会誌掲載料事業収益							6,018,000
会誌広告料事業収益							4,000,000
会誌頒布事業収益							1,388,000
編集料事業収益							2,100,000
受け取り補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							0
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	14,188,000	0	14,188,000
受取利息					14,000		14,000
雑収益					14,174,000		14,174,000
経常収益計	23,600,000	5,950,000	0	29,550,000	56,356,000	0	99,412,000
(2) 経常費用							
事業費	16,805,355	5,591,000	0	22,396,355	0	0	68,931,130
給料手当	685,405			685,405			10,071,630

臨時雇賃金	1,800,000	200,000		2,000,000			2,221,000
退職給付費用	23,400			23,400			702,000
福利厚生費	61,550			61,550			1,846,500
旅費交通費	1,000,000	400,000		1,400,000			2,727,000
通信運搬費	100,000	51,000		151,000			4,160,000
消耗什器備品費							
消耗品費	150,000	3,750,000		3,900,000			4,250,000
印刷製本費	3,500,000	60,000		3,560,000			16,802,000
賃借料	1,200,000	250,000		1,450,000			1,619,000
諸謝金	400,000	750,000		1,150,000			2,470,000
租税公課	417,000	62,000		479,000			918,000
支払負担金	6,000,000	24,000		6,024,000			10,228,000
委託費	1,450,000	16,000		1,466,000			6,958,000
雑費	18,000	28,000		46,000			3,958,000
管理費	0	0	0	0	29,512,870	0	29,512,870
給料手当					8,967,370		8,967,370
臨時雇賃金					2,033,000		2,033,000
退職給付費用					234,000		234,000
福利厚生費					1,115,500		1,115,500
会議費					155,000		155,000
旅費交通費					500,000		500,000
通信運搬費					902,000		902,000
消耗什器備品費					410,000		410,000
消耗品費					420,000		420,000
印刷製本費					630,000		630,000
光熱水料費					405,000		405,000
賃借料					7,380,000		7,380,000
保険料					6,000		6,000
支払手数料					724,000		724,000
諸会費					345,000		345,000
諸謝金					1,150,000		1,150,000
租税公課					56,000		56,000
委託費					2,590,000		2,590,000
雑費					1,490,000		1,490,000
経常費用計	16,805,355	5,591,000	0	22,396,355	29,512,870	0	98,444,000
評価損益等調整前 当期経常増減額	6,794,645	359,000	0	7,153,645	26,843,130	0	968,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	6,794,645	359,000	0	7,153,645	26,843,130	0	968,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-6,794,645	-359,000		-7,153,645	-26,875,130		0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	968,000	0	968,000
法人税、住民 税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	898,000	0	898,000

## 【第3号議案】

## 平成31年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の14名を平成31年度新役員として推挙したい。

任期	平成31年度役員		
	平成29年3月～ 平成31年3月	平成30年3月～ 平成32年3月	平成31年3月～ 平成33年3月
理事	澤 俊裕		浅田 稔
理事	浅田 稔		村上弘記
理事	松日楽信人		松野文俊
理事	石橋一郎	矢野 寛	岡田 聡
理事	細田祐司		細田祐司
理事	原口林太郎	有坂寿洋	蓮沼仁志
理事	中嶋秀朗	菅原 淳	太田祐介
理事	正宗 賢	山本晃生	永谷圭司
理事	原田研介	和田正義	武居直行
理事	大原賢一	辻 俊明	新妻実保子
理事	大日方五郎	岩田浩康	山崎公俊
理事	中臺一博	稲邑哲也	田中文英
理事			長井隆行
監事	高西淳夫	吉見 卓	澤 俊裕

## 【第4号議案】

## 名誉会員推挙の内

日本ロボット学会、名誉会員選任規程第2項（会長経験者、および、その他、ロボットの学術または技術に関する権威者で、かつ本会に対し功績顕著な者）に従い、下記の2名を新しく名誉会員として推挙したい。

榊原伸介 1948生 会員# 4185  
佐藤知正 1948生 会員# 100

なお、これに伴い、日本ロボット学会名誉会員は下記18名（内5名故人）となる。

花房秀郎 1923生 会員# 73  
藤井澄二（故人） 1920生 会員# 79  
森 政弘 1927生 会員# 25  
米本完二（故人） 1924生 会員# 488  
梅谷陽二 1932生 会員# 41  
稲葉清右衛門 1925生 会員# 1070  
長谷川幸男（故人） 1927生 会員# 71  
有本 卓 1936生 会員# 1078  
江尻正員 1937生 会員# 77  
三浦宏文 1938生 会員# 1023  
木下源一郎（故人） 1941生 会員# 266  
牧野 洋 1933生 会員# 43  
吉川恒夫 1941生 会員# 311  
内山 隆（故人） 1947生 会員# 506  
金出武雄 1945生 会員# 292  
原島文雄 1940生 会員# 2122  
榊原伸介 1948生 会員# 4185  
佐藤知正 1948生 会員# 100

## 【第5号議案】

## 会員除名の件

日本ロボット学会定款第9条に従い、下記の者を除名したい。

堀 俊夫

会員 # 004533

※参考：日本ロボット学会定款

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議  
によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) 本会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

第12条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名  
・・・・・・以下略